

117 伝染性ファブリキウス嚢病〔届〕

担当	検査チャート
家畜保健衛生所	
病性鑑定施設	<p>(4) 抗体検査 <寒天ゲル内沈降反応> <ELISA></p> <p>(5) ウイルス培養試験 <発育鶏卵接種試験></p> <p>(6) P C R</p> <p>(7) 病理組織検査</p>
判定・結果	<p>(+) (-) (+) (-) (+) (-)</p>
最終判定	<p>疫学調査、臨床検査の結果を基に、ウイルス培養試験、病理組織検査等の結果により総合的に判断する。</p>
その他	

→類似疾病検査

- ① 134 鶏コクシジウム病
- ② 112 サルモネラ症
- ③ 111 家きんサルモネラ感染症
- ④ 129 鶏大腸菌症
- ⑤ 114 マレック病
- ⑥ 115 伝染性気管支炎
- ⑦ 110 ニューカッスル病・低病原性ニューカッスル病

○ 病原体:伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス;Infectious bursal disease virus [*Infectious bursal disease virus, Avibirnavirus, Birnaviridae*]

(1) 疫学調査

- ① 2～10 週齢に多発する。
- ② 突発的に発生するが、一過性で回復
- ③ 免疫能低下により他病を増悪する。

(2) 臨床検査

- ① 一般症状の悪化
- ② 乳白色水様下痢(末期には緑色下痢便)
- ③ 羽毛の光沢・逆立、嗜眠

(3) 剖 検

- ① ファブリキウス嚢の水腫性腫大または萎縮、粘膜面の黄色化、出血、壊死
- ② 感染 5 日目以降はファブリキウス嚢が萎縮
- ③ ときに筋肉、腺胃にも内出血

(4) 抗体検査(寒天ゲル内沈降反応、ELISA)

(ペア血清について行う。)

ELISA もしくは寒天ゲル内沈降反応

(5) ウイルス培養試験(発育鶏卵接種試験)

材料:ファブリキウス嚢

方法:9～11 日齢発育鶏卵の漿尿膜上に接種

判定:3～7 日で死亡、浮腫、皮下の充出血、PCR

(6) P C R ¹⁾

材料:ファブリキウス嚢、分離ウイルス

用途:同定、分子疫学解析

(7) 病理組織検査

- ① 病変はファブリキウス嚢に限局することが多いが、強毒株では骨髓細胞も消失
- ② ファブリキウス嚢におけるリンパ系細胞の変性・壊死と粘膜固有層や粘膜下織の水腫
- ③ 脾臓、胸腺、盲腸扁桃等のリンパ組織の変性壊死

(参考文献)

・鶏病研究会編:鳥の病気.

1) Lin, Z., et al.: Avian Dis. 37, 315-323 (1993).